

サマー・サイエンスキャンプ2012

「森林の昆虫の多様性にせまる」

独立行政法人 科学技術振興機構の主催によるサマー・サイエンスキャンプを、7月23日～25日の3日間をかけて、当所にて実施しました。

(※サマー・サイエンスキャンプ……第一線の研究開発現場で活躍する研究者から直接指導を受けることができる、実験・体験を主体とした高校生のための科学技術体験合宿プログラム。)

当所のプログラムタイトル「森林の昆虫の多様性にせまる」に興味を示した、虫や自然が大好きな高校生9名（男子5名、女子4名）が、全国各地から集まりました。

【初日】

開講式・概要説明の後、実験林内の人工林と天然林に、昆虫を採集するためのワナ（トラップ）を、蚊や下草と格闘しながらも、思い思いの場所へそれぞれ5～10個設置しました。その後、昆虫採集法について講義・討論行い、1日目を終了しました。



【人工林でトラップ設置】



【天然林でトラップ設置】

【2日目】

○前日に設置したトラップから採集した昆虫を観察しました。

○事前に準備しておいたサンプルのソーティング（昆虫とそうで無いものの仕分け）や、蛾の展翅（標本用に羽を広げ固定すること）を行いました。

ピンセットで小さな虫をひとつひとつつまみあげケースに並べたり、蛾の羽をていねいに広げピンで固定する作業は、手際よく根気よく進めていました。

○「生物多様性」について講義を受け、「遺伝的・種・生態系」それぞれの多様性について理解を深めました。

○今回のトラップで多く採集した地表性甲虫類（甲虫目オサムシ科）を、事前にソーティングしたものを使って同定（どの種に属するかを判定）する作業を行いました。

2～3人で班を作り、実体顕微鏡を覗き込み、図鑑と見比べ相談しながら、真剣な表情で虫を観察していました。

○講師陣・生徒の交流会（夕食）の後も、同定作業を行った結果を、種類別／個体数などデータを入力する作業を夜遅くまで行いました。



【ソーティング】



【ソーティング】



【展翅】



【同定】

【最終日】

○昨日得られたデータを元に、人工林・天然林それぞれで捕獲された地表性甲虫類の種類や個体数から、違いを発見し、その理由を考え、多様性を守るにはどうしたら良いか、また、生物多様性を守るうえで人工林を作ることの良いことか・悪いことかーなどについて、班毎に意見をまとめ資料を作成し、成果発表を行いました。

各班ともパソコンを使った資料作りも難くこなし、2日間の実習の成果を十分に発揮できた成果発表でした。

○閉講式では、当支所長から参加者一人一人に修了証書を授与し、すべての過程を終了しました。



【発表準備】



【成果発表】



【本館屋上にて】



【トラップで捕獲した昆虫】

最後に、

全国各地から集まった高校生たちでしたが、皆さんすぐに打ち解け、和気あいあいと活発に行動していました。

今回の実習では、試験林の中での作業を2日に分けて行いましたが(トラップ仕掛け、回収作業)、虫や怪我対策のため雨合羽を着用して作業してもらいました。大量の汗を流しながら大変だったと思いますが、好きな虫たち・自然に触れることが出来て大変良かった、と感想を話してくれました。

この体験が、少しでも皆さんの力になることを期待します。